

令和3年

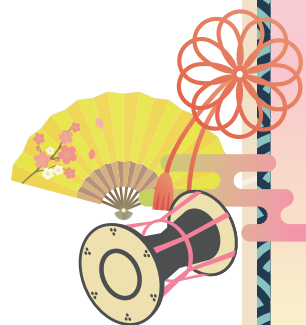
3

ソフィアだより

3月3日は

ひなまつり

桃の節句



ぼくは何を

ぼくは 何をもっているのだ

やさしさなら おかあさんがもっている 勇気なら おとうさんが

すなおさなら ポチが 賢さなら 先生がもっている

がまん強さなら 冬のムギが 勤勉さなら 夏のア리가

そして美しさなら 道ばたの一本のタンポポがもっている

で ぼくは 何をもっているのだ

いつも後で しまったと思う おっちょこちょいと

だれにも負けない いたずら心のほかに・・・ 笑うなかれ!

希望だ・・・

やさしくて 勇気があって すなおで 賢くて がまん強く 勤勉な 美しい心

に ぼくを 少しでも近づけたいという・・・

笑うなかれ! というぼくは 自分で笑っちゃ サマにならぬぞよ!

まど みちお

令

和2年度の保育生活があと1ヶ月で終わります。園の行事の自粛やさまざまな制約で保護者の方には寛容で温かいご協力をいただきました。ありがとうございました。

遠足、フェスタ（運動会）、発表会の縮小、おしゃべりのない給食、アルコール消毒の嵐、あらゆる場面での、新しい保育生活に、笑顔で活動してくれた子ども達にありがとうございますを伝えたいです。これからも新しい生活様式が普通の生活様式となり、私たちの柔軟な対応が求められ続けます。

2050年問題が少しずつ聞こえてきました。人口減少、温暖化で、地球規模で環境を見直していこうと意識ある人たちが立ち上がっています。その1つの取り組みが、持続可能でない今の食料システムを見直し、食品ロスをなくしていこうというものです。個人の健康より、地球環境に焦点を当てているプラネタリーダイエット。アメリカの150校の大学の学生が700名のネットワークシステムを構築し廃棄されそうな食材を現場に近いメンバーが回収し、食に困っている人に配布するファームリンクプロジェクト。代表の若者は、「何かしないではいられなかった」とインタビューに答えていました。

持続可能か不可能か。可能な地球にしていくことができるかは、2030年が分岐点と言われます。子ども達が、「もっているものは希望だ!」と大きな声で言える世界が続くように。コロナウィルス感染拡大の防止という人類の課題を乗り越え、10年後の未来をみすえ一人ひとり自分ができることをはじめてみたい。と心に思い次年度に引き継いでいきたいと思ひます。



ソフィア東生駒こども園 園長 中畑直実